



## Midwest Stand Up!!

留学先大学：コー大学 (Iowa, USA) 志村 拓瑠

まず初めに留学から帰ってきた僕が思うのは、時が経つというのは自分の想像しているものよりはるかに早いということです。ちょうど一年前の今頃、僕は何をしていたのだろうとふと振り返ってみると、留学という自分にとっての未知の領域に足を踏み入れることに緊張しつつも留学先でどのような生活が待っているのだろうという期待に胸を躍らせながら出発の日を待っていたような気がします。今思えば、あっという間の一年間でした。毎日が新鮮で楽しく、日本に居ては決して経験できないようなことも数多く経験できたように思います。僕はアメリカ、アイオワ州にあるコーカレッジ (Coe College) で11ヶ月間ほど学びました。コーの環境は留学するにはベストなものと言えらると思います。なぜならば、学校の周りに自分を誘惑するような施設が存在しないからです。悪く言えば「何も無いただの田舎町」ですが、僕は英語の勉強ができれば周りに何があろうが無かろうが関係なかったので気にはなりません。それから、コーの ESL (English as a Second Language) プログラムはとてもしっかりしていて留学を推奨するような雑誌にも載っているほどです。とにかく勉強熱心な生徒が多く日々刺激されていました。

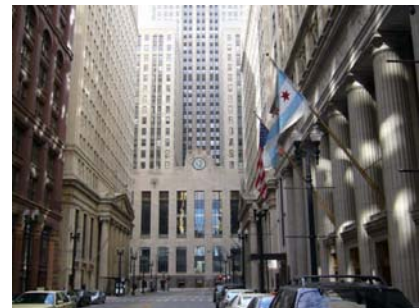
僕の中で、今回の留学は大きく3つの部分に分けられると思えました。ですので、これからそれらについて順を追って書いていきたいと思えます。1つ目として、8月上旬から下旬にかけてコーカレッジで行われた **Summer Orientation** です。このプログラムはこれから1年ほど留学するという日本人生徒が集まって3週間ほどの研修を行うというものです。また、2つ目としては、コーカレッジで過ごした秋学期についてです。そして最後に僕にとって最も重要で、貴重で、楽しかったコーカレッジでの春学期について書きたいと思えます。

この体験記を読んでもくださった生徒の皆さんが一人でも多く留学を目指していただければ嬉しいです。

### (1) Summer Orientation

(07/31/2006 ~ 08/19/2006)

何故、僕がこのサマーオリエンテーションを1つのターニングポイントとして選んだかという、このプログラムを通して自分がいかに英語が出来ないかということを実感させられたからでした。僕は留学に行くまでまともに英語で文章を書いたことがありませんでした。そのため、コーに着いた次の日にエッセイの宿題が出されたときは焦りました。はっきり言って何から手をつければよいのか全く分からずいっばいっばいの状態でした。他のクラスメートはすでにエッセイの基本的な書き方や規則を



知っているにもかかわらず、自分は全く知らなかったので大分遅れをとったような気がしてなりません。アメリカの大学では、ひとつのエッセイを他の生徒や先生に見て貰いながら何回か書き直す「リバイス」というものが頻繁に行われます。僕自身もクラスメートや担当の先生に何度か見て貰いながら数回書き直しました。時には、朝の6時まで友達とパソコンとにらめっこしながらどういう風にかいたら論理的で説得力のあるエッセイを書けるのかと話し合ったこともありました。それまでの僕は TOEFL のスコアを上げることばかりに躍起になっていたため、このような文章を書くという練習をほとんどしていませんでした。ご存知のように、この学校内で受けられる TOEFL 試験ではライティングは含まれていないため、僕はそれに向けた勉強を避ける傾向にありました。向こうへ行ってから苦労しないように今のうちから少しずつ英語を書くということをやってみてください。絶対に役に立つはずですよ。とりあえず、僕はこのサマーオリエンテーションで留学というものが自分の思っていたほど甘くはないことを思い知らされました。

## (2) Fall Semester (08/21/2006 ~ 12/15/2006)



当時、僕は学校で受けられる TOEFL 試験である程度の点数を満たせば、アメリカの大学へ留学するのにレギュラークラス（現地の生徒と一緒に受けるクラス）を受講できるという風に聞いていたのでとてもわくわくしていました。しかし、蓋を開けてみると実際に重要視されていたのは TOEFL のスコアではありませんでした。それは、他にもないライティングの能力でした。先ほども述べましたように、僕はライティングの勉強を出来るだけ避けてきたため、案の定レギュラークラスを受講することが出来ませんでした。学校によっては ESL が存在しないため、最初からレギュラークラスを受講するという場所もありますが、コーではまず ESL で基礎知識やアメリカの大学の授業の進め方などをしっかりと学び、それからレギュラークラスへ、というのが普通なようでした。コーは比較的日本人が多く、これら ESL のクラスはほとんど日本人のみで構成されており、秋学期が始まってまもなくは留学に来た気がせずモチベーションがなかなか上がりませんでした。しかし、運がいいことに、僕の所属していたクラスは日本人でも自分とは違う大学から来ていた勉強熱心な生徒ばかりだったのでいい刺激を受けることが出来、また自分の人脈を広げるよいきっかけにもなりました。

今になって思えば、この秋学期の準備期間が無く、新学期早々からレギュラークラスを受講していたとしたら恐らく自分の不甲斐なさに落ち込み、何の思い出も残らないつまらない留学になっていたかもしれません。

### (3) Spring Semester (1/10/2007 ~ 4/25/2007)

そして、僕にとって一番充実し、吸収するものが多かったのがこの春学期です。この時期になってようやくレギュラークラスを受講することが許可され、僕は「Fundamentals of Public Speaking」、「The Essay」、「The Civil War」という3つのクラスを受講しました。どのクラスも全てレギュラークラスですから、今までとは違って周りのほとんどは現地の生徒です。最初は今までとは全く違ったこの雰囲気の中でうまくやっていけるのかどうかとても不安でした。しかし、クラスメートや担当の先生方は自分たちを留学生としてではなく、一人のクラスメートとして見てくれ、何事にも親身になって相談に乗ってくれたり、力を貸してくれたりしました。僕が特に印象に残っているのは、「The Civil War」という授業でお世話になった担当の Melody Miyamoto 教授です。彼女はハワイの出身で、容姿は日本人なのですが日本語は全く話せないそうです。この授業はアメリカで起こった南北戦争についてアメリカ人の視点から細かく学んでいきました。日本ではこれほどまでに詳しく南北戦争について勉強しなかったのでも興味深いものでした。この授業において Miyamoto 教授は常に自分のことを考えてくれ、授業後にオフィスを訪ねるといつも笑顔で迎え入れ、その日の講義で分からなかったことや大事なポイントなどをゆっくりかつ分かりやすく教えてくれました。そのおかげで僕はこの授業で「B」を取ることが出来ました。また、「Fundamentals of Public Speaking」の授業では人前に立って発言することの難しさを改めて思い知らされました。この授業の目的は公共の場や人前でのスピーチをいかに緊張せず、うまくやりきるかというものでした。ですから、春学期を通



して4回ほど人前で発表する機会がありました。そのうちの1回は数人でのグループ発表だったのですが、現地の生徒は僕ら留学生を快くメンバーに誘ってくれ、彼らと同じ様に仕事も割り振ってくれました。僕はそれがとてもうれしくてとても感動し、協力することの大切さやすばらしさを知りました。それから、「The Essay」のクラスでは英語で文章を読むというのが如何に大変なことかが分かりました。この授業ではアメリカやイギリスの有名な作家が書いたエッセイを読んで自分なりの感想を書いたり授業中に討論をしたり、という授業でした。しかし、僕はこの授業

では留学生としての利点を最大限に利用していました。というのも、担当の教授が僕には難しくて読めないであろうというエッセイについてはやらなくていいという風に言ってくれたので。少し、悔しい気持ちもありましたが実力が無いので仕方ないと割り切り、与えられた課題だけはしっかりこなしました。そのおかげ

で、日本では身につけるのが難しかったライティングの能力が大分ついたように思います。

この春学期での経験によって自分の留学がとても充実したものになったと感じています。留学に行く前の目標の一つにレギュラークラスを受けて全てパスするというものがあったのでそれが達成できてうれしく思います。

